

ローマ帝政期に黄金期を迎えるラテン文学は、その後各地で俗語として発展していきます。特にイタリアでは、ルネサンス期にダンテの『俗語論』をきっかけにトスカーナ方言を中心としたイタリア語の成立と、ボッカッチョ、ペトラルカによる洗練された文学が確立していきます。イタリア語の確立と、イタリア文学の果たした役割を見ていきたいと思います。

現在でも南フランスで話されているオック語は、フランス語の成立に関わり、かつ中世文学の主な担い手であるトゥルバドールたちの言語でしたが、フランス語の発展と共に次第に衰退してしまいます。今回は、19世紀中葉に突如として興ったこの言語の文学の復興運動の背景を探り、その中心的な作家でノーベル文学賞を受賞したフレデリック・ミストラルの作品を楽しみます。